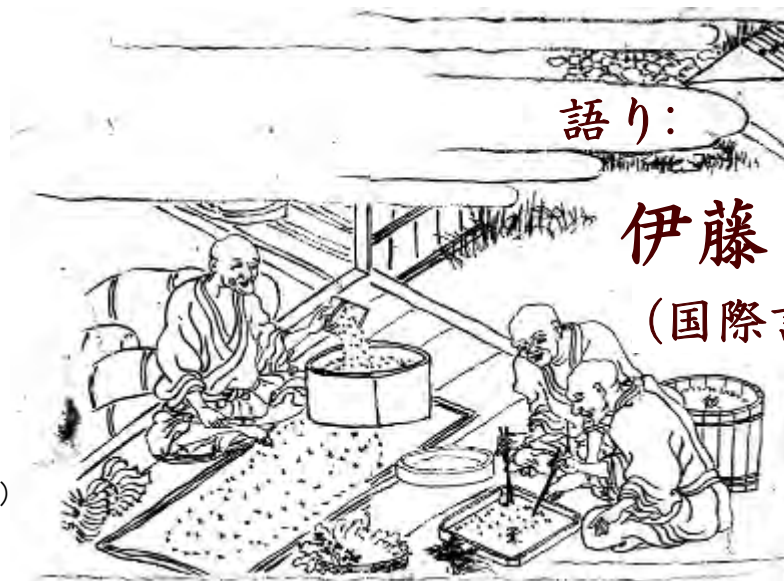


『酒飯論絵巻』に描かれる 食物について

— 赤米（あかごめ）を中心として —



語り:

伊藤 信博 助教

(国際言語文化研究科)

西尾市岩瀬文庫所蔵
『三輪絵詞』(酒飯論絵巻)
より

『酒飯論絵巻』は室町後半の食事を描く文化資料として大変価値がある作品である。この絵巻には、手で米(粳と思われる)を杵に入れ、容量を計り、蒸し器らしき桶に移し変えていたり、二人の男が箸を使用して米を選別したりしている場面が描かれている。

この場合、何故米一粒毎を選別するのに箸を使用しているのでしょうか。今回は、室町から江戸期にかけて記された「近世節用集」や文学作品に記される「大唐米」の糯種を中心に考察し、この場面の米が「大唐米」であり、蒸された米である事実を証明したいと考えている。

2010年10月26日(火) 午後6時～
名古屋大学中央図書館5階多目的室

参加無料
申込不要
会員以外の方
も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会

TEL 052-789-3666

FAX 052-789-3693

E-Mail tomo@nul.nagoya-u.ac.jp

URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援)

名古屋大学附属図書館,
同研究開発室

